日本の半導体関連上場企業 2024 年業績、回復ながら部分的

半導体産業の調査研究を行っている SRL は、半導体関連上場企業 129 社の 2024 年度業績を集計、分析した。

対象は、半導体事業を収益の柱としている企業で、シリコンウェハーなど材料 24 社、半導体製造装置 46 社、トランジスタ、メモリなど半導体製品 39 社、半導体販売の商社 20 社。

129 社全体の集計結果は表の通り。24 年度(25 年 3 月期基準)の対象 129 社の売上は総計で 23.95 兆円、前年度から 6.2%増、1 年前は 5.4%減だったことから当期は回復に転じた。

当期の特徴は、製造装置分野の躍進。材料分野では JX 金属、半導体製品ではキオクシアがそれぞれ新規上場、この結果、全体数字が大きく底上げされた。

これら新規上場による影響を場外すれば、材料は増収益、半導体製品は大幅減収益、商社分野も低調な結果だった。

半導体関連株式公開企業129社の2024年度業績集計

金額単位=100万円、変化率=前年度比増減

分野	企業数	連結売上高		営業利益		経常利益		純利益	
		金額	変化率	金額	変化率	金額	変化率	金額	変化率
材料	24	6,933,04	-5.6%	1,193,3	-0.3%	1,271,2	13.3%	835,51	5.7%
製造	46	7,396,30	24.4%	1,631,4	34.3%	1,652,1	46.6%	1,229,	49.4%
製品	39	4,514,25	7.5%	726,308	120.1%	689,989	130.0%	561,15	22.1%
商社	20	5,113,38	0.6%	171,228	-22.3%	153,500	-23.2%	117,13	-19.1%
合計	129	23,956,9	6.2%	3,722,3	25.7%	3,766,8	37.0%	2,743,	23.7%

出所=SRL

上位 2 社が売上 2 兆円超

売上高上位企業のランクは新たにキオクシアが加わったことを除けば前年度から変わらない。構成も材料、製造装置、半導体製品それから商社とこの産業を構成する主要企業が顔を揃えている。うち上位 7 社の売上

げが1兆円超と海外の競合企業と比べても見劣りしない規模。2兆円台に東京エレクトロン(TEL)が復帰した。

57社が最高売上を更新

24年度の売上では全129社中、88社が増収、うち全体の44%に相当する57社が過去最高売上げを確保した。

分野別では、材料が全24社中12社、半分に相当する企業が最高記録を更新した。製造装置は全46社中20社が最高を更新した。

半導体・ソフト製品は全39社中約半分に当たる21社、商社は20社中5分の1に相当する4社がそれぞれ最高売上を更新した。

129社の売上金額と順位				
順位	会社名	売上高 (100万円)	増減 %	最高 更新
1	信越化学工業	2,561,249	6.1%	
2	東京エレクトロン	2,431,568	32.8%	☆
3	キオクシアホールディングス	1,706,460	58.5%	
4	レゾナック・ホールディングス	1,389,277	7.8%	
5	ルネサスエレクトロニクス	1,348,479	-8.2%	
6	マクニカホールディングス	1,034,180	0.5%	☆
7	アドバンテスト	779,707	60.3%	☆
8	ニコン	715,285	-0.3%	
9	JX金属	714,940	-52.7%	
10	SCREENホールディングス	625,269	23.8%	☆
~				
	総計	23,956,993	6.2%	

利益額では信越がトップ持続、時価総額ではTEL

経常利益のランキングでは対象129社中、上位2社まで前年度から順位は変わらない。信越化学工業が売上同様常にトップの座を確保、2位の東京エレクトロンは昨年の減益から大幅増益に転じた。新規のキオクシアが3位に入り、同様にJX金属も8位に付いている。このところ話題を呼ぶ時価総額では25年5月の段階で信越化学工業の9.08兆円に対し東京エレクトロンは10.9兆円と2年前に逆転してから変わらない。

32社が最高利益を更新

24年度の利益では全129社中、70社が増益、うち全体の25%に相当する32社が過去最高売上げを確保した。

129社の経常利益額と順位				
順位	会社名	経常利益額 (100万円)	増減 %	最高 更新
1	信越化学工業	820,543	4.2%	
2	東京エレクトロン	707,727	52.8%	☆
3	キオクシアホールディングス	370,669	-	
4	ルネサスエレクトロニクス	263,833	-37.5%	
5	アドバンテスト	224,774	187.5%	☆
6	ディスコ	168,943	38.0%	☆
7	SCREENホールディングス	138,265	46.7%	☆
8	JX金属	107,476	36.5%	
9	レーザーテック	82,021	28.8%	☆
10	レゾナック・ホールディングス	69,692	-	
	総計	3,766,876	37.0%	

分野別では、材料が全24社中6社、4分の1に相当する企業が最高記録を更新した。製造装置は全46社中17社が最高を更新した。

半導体・ソフト製品は全39社中43%に当たる17社、商社は20社中1社がそれぞれ最高利益を更新した。

27 社が売上、利益ともに最高更新

当期で売上、利益ともに最高記録を更新したのは 27 社で、輝く成果を達成した。内訳は材料 5 社、製造装置 16 社、半導体製品・ソフトウェア 7 社の構成。以下、表に示す。

「売上」、「利益」ともに最高更新企業

「材料」	ジャパンマテリアル
MARUWA	A&Dホロン
リンテック	タツモ
RS Technologies	サムコ
トリケミカル研究所	クエスト
クラスターテクノロジー	
	「半導体製品・ソフト」
「製造装置」	NSW
東京エレクトロン	湖北工業
アドバンテスト	PKSHA Technology
ディスコ	フィックスターズ
SCREEN ホールディングス	イーソル
レーザーテック	クオルテック
KOKUSAI ELECTRIC	ヴァイツ
ローツエ	
東京応化工業	
芝浦メカトロニクス	
野村マイクロ・サイエンス	
日本マイクロニクス	

利益率 大手が上位に食い込む

各分野における利益率(売上高に対する経常利益額比率)上位 5 社を本誌は毎年集計している。最近の傾向は、売上での大手企業が利益率でも上位に位置することが増えたことで、この傾向は当期も変わらない。

材料分野トップの MARUWA はセラミック基板、次世代半導体パッケージが主力。利益率を高めており、かつ増収益を継続、成長力が持続していることを示している。

大手の信越化学工業は、利益率を下げたが 3 位の座を確保、再生ウェハーの RS Technologies も同じ傾向をみせている。同業では SUMCO が減収減益に陥り、この分野の競争激化をうかがわせる。

製造装置分野では、ディスコがトップ、利益率は 43.0%と高水準、かつ増収益の最高更新と競争力の高さをみせている。東京エレクトロン、アドバンテストも利益率を前期から高めている。

半導体製品・ソフト分野でトップの湖北工業は、自動車用アルミ電解コンデンサ用リード端子、海底ケーブル用通信部品を主力としている。得意先はサブコムが総売上の 20.5%、アルカテル・サブマリン・ネットワーク

17.6%など世界的な海底ケーブル大手。大手のキオクシア、ルネサスがランクに入っているが、利益率は低下している。

経常利益率での業種分野別 上位5社
2022年度－2024年度

	2022年度		2023年度		2024年度	
	社名	%	社名	%	社名	%
材	1 イーディービー	47.3%	MARUWA	34.3%	MARUWA	37.6%
	2 トリケミカル研究所	44.8%	信越化学工業	32.6%	トリケミカル研究所	34.8%
	3 信越化学工業	36.3%	トリケミカル研究所	29.1%	信越化学工業	32.0%
	4 MARUWA	36.0%	RS Technologies	28.8%	RS Technologies	26.5%
	5 RS Technologies	31.1%	テクノオーツ	22.5%	フジインコーポレツド	19.6%
製造装置	1 ディスコ	39.5%	レーザーテック	41.8%	ディスコ	43.0%
	2 レーザーテック	37.2%	ディスコ	39.8%	レーザーテック	38.4%
	3 ローツエ	32.1%	ローツエ	29.0%	東京エレクトロン	29.1%
	4 アドバンテスト	30.6%	東京エレクトロン	25.3%	アドバンテスト	28.8%
	5 テセック	28.7%	テセック	24.8%	ローツエ	28.5%
半導体製品	1 テックポイント	30.1%	テックポイント	30.7%	湖北工業	30.5%
	2 湖北工業	28.3%	フィックスターズ	29.5%	フィックスターズ	28.8%
	3 浜松ホトニクス	28.2%	ルネサスエレクトロニクス	28.7%	キオクシアホールディングス	21.7%
	4 フィックスターズ	26.8%	浜松ホトニクス	26.8%	PKSHA Technology	19.8%
	5 ルネサスエレクトロニクス	24.1%	湖北工業	23.4%	ルネサスエレクトロニクス	19.6%
商社	1 高千穂交易	6.8%	高千穂交易	7.3%	高千穂交易	7.1%
	2 ミタチ産業	5.7%	マクニカホールディングス	6.0%	東京エレクトロンデバイス	5.3%
	3 マクニカホールディングス	5.5%	東京エレクトロンデバイス	5.7%	加賀電子	4.1%
	4 伯東	5.4%	立花エレテック	5.1%	伯東	4.0%
	5 加賀電子	5.4%	加賀電子	4.8%	立花エレテック	3.9%

出所=SRL

商社分野では高千穂交易がトップの座を常に確保、最大手のマクニカは前年度では6.0%で2位を確保していたが、当期は3.6%に下落、ランク外になった。上位5社全て前年から利益率は低下しており、この分野の競争の厳しさを示している。

今年度売上横ばい、減益見込み

対象 129 社の計画では、今年度(26年3月期)は売上で前期比 1.6%増、経常利益で 7.4%減が見込まれている。米中対立の激化、ウクライナ、中東戦争など厳しい環境下で、業績への影響も高まりそうだ。

(大竹 修)